

議会だより

第 43 号

平成29年 12月 1日 発行



議会日誌

平成29年 7月～ 9月

- 7月 9日 社会的養護の社会化フォーラム in 東紀州（熊野市）
- 11日 夏の交通安全県民運動啓発キャンペーン（御浜町）
熊野川流域対策連合会理事会・総会（新宮市）
- 18日 熊野川流域ダム湖下流協議会定期総会（新宮市）
- 23日 トップセミナー（津市）
- 29日 中能登町祭「第13回織姫夏ものがたり」
- 8月 3日 三重県町村議長会定期総会（津市）
- 15日 初盆供養花火大会
- 18日 議会運営委員会
紀南環境衛生施設事務組合定例会（新宮市）
近畿自動車道紀勢線建設特別委員会
- 28日 全員協議会
- 29日 熊野川改修促進期成同盟会総会（新宮市）

- 8月30日 紀南介護保険広域連合議会定例会（熊野市）
子ども議会
- 9月 5日 熊野・南郡正副議長会設立総会（熊野市）
- 6日 議会運営委員会
- 11日 三重・奈良・大阪リニア中央新幹線建設促進決起大会（大阪）
- 12日 第3回定例会・第1日目
- 13日 第3回定例会・第2日目
- 14日 第3回定例会・第3日目
- 20日 議会運営委員会
第3回臨時会
- 27日 紀南病院組合議会定例会（御浜町）
紀南社会福祉施設組合他一部事務組合議会定例会（御浜町）
- 28日 国道169号線改良促進連絡協議会要望活動（東京都）

9月定例会

一般質問

(要約)

新宮紀宝道路



平野 美津子 議員
・近畿自動車道紀勢線新宮紀宝道路について
・矢渕中学校の防災対策について

議員

河口に橋を架ける会の要望は一般道路であったが、それが高速道路になってしまい、自転車や人が通れない道路になってしまった。事業化前に行政や町長は情報を住民に知らせる義務があると思いますが、町民に情報を提供したと考えていますか。

企画調整課長

平成25年5月15日に国の予算が成立し、事業化が決定しました。事業化前に、事業概要や、ルート等決まっていらない状況で、住民説明は、不可能です。事業化

議員

決定後に国土交通省紀南河川国道事務所において説明を行っていただいたところですが、ルートを含めて確定しない段階で、住民等皆さまに情報を与えると逆に混乱や誤解等も招くおそれもあるということも考えられたのではないかと考えております。

この町の長が地域の住民の思いを受け止めていく姿勢が必要です。熊野市から松阪までは山の中を通っていて、100軒も立ち退きするようなところは通っておりません。

政策担当理事

近畿地方整備局の紀南河川国道事務所の課長さんにお電話したところ、近畿地方整備局内に、こういう100軒も立ち退きがある高速道路を通しているところは近畿地方整備局内にはないとの回答でした。全国であれば教えてくださいと言いましたが、いまだに回答はありません。国交省が紀宝町と話し合わないで、そういう所を通すことはないと言っていました。議員研修会の弁護士さんが

とはございません。

議員

知らなかったというのはおかしい。国交省、ルート変更する会、紀宝町の三者が集まって話し合いをしたことがあると思いますが、国交省はそういう場を今までに持っていますと、紀宝町は持っていないと言います。結論が出されずにうやむやにして、そのような状態では住民が納得できません。ルート変更を求める会の方達が、3号まで会報も出し、会場を借りるのも皆でお金出して、本当に自分達の暮らしを守るために頑張っています。その方達が納得いく対応をしていたいただきたい。近畿自動車道紀勢線新宮紀宝道路のルートにかかる住民に対して、土地購入価格の提示がありましたか。その価格は今後引き上げられることがあるのですか。

政策担当理事

個別の方の、用地費が安いとかっていうお話をされたとは私は認識をしておりませんが、実際契約に伴う補償説明におきましては、

個々、個人さんの財産、そして個別の全く一つひとつ違う案件であります。当然いろんな利害が絡んでまいりますので、いろんなご意見も出ます。もうすでにご契約をいただいております方もいらっしゃいます。今後とも私も国、県と一緒に、ご理解を得るように一生懸命努めてまいりたいと考えております。

産業基盤整備担当理事

補償額は国が定めた補償基準に基づき算定することとなっております。新宮紀宝道路で取得する土地の価格は、現時点での地価調査の基準地価格や不動産鑑定評価格、近年の近隣における取引事例価格等を元にして、国土交通省によって適正に算定されているというふうに伺っております。

議員

納得されて了承された方がいらっしゃるというご報告でしたが、何件中、何件が納得されているのでしょうか。

政策担当理事

その具体的な数字につきまして、この場では控え

させていただきます。

議員

なぜ、それが公表できないのか理由をお聞きします。そういう状況で進めることは皆さんの不信感があります。す高まっていくと思います。が、その点どのようにお考えですか。

政策担当理事

今の段階で、この議会の場では差し控えさせていただきます。きちっとした報告を議会の場で持ちたいと考えております。

議員

その時期はいつですか。

政策担当理事

私も報告すべき時期が来たと考えた時にさせていただきます。

議員

どういう時期に報告するのですか、新宮紀宝道路の立ち退き対象者に対して、どういう対応をしていますか。

産業基盤整備担当理事

特別委員会をたち上げておりますので、例えばそういう場で報告をさせていただきま。町では平成28年7月19日から10月12日に

け、地権者の皆様に意向調査を行ってきま。4月から施行してあります代替地登録制度実施要綱に基づき、代替地登録いただきました民有地情報を、町有地代替地リストを提供しました皆様に、8月から16箇箇所の情報提供をしたところでございます。この代替地情報につきましても、8月7日から申込受付を開始し、先着順に代替地登録者との交渉日程を調整してまいりたいと考えております。

矢渕中学校の防災対策

議員

矢渕中学校の防災対策についてですが、台風等は警報が出たら子どもを帰宅させるので、子どもに危険が及びま。んが、いつ起こるか分からないという地震について、前からは津波が来て、後ろは崩れてきた時を私は一番心配しますが。

教育課長

地震が発生した場合は、第1次避難としまして、その場における身の安全の確保、第2次避難としてグラウンド中央への避難となります。時間的に移動が難しい場合は4階は海拔20mに位置していることから、校舎4階に避難することとしています。

※この他に「台風5号の際のタイムラインの取り組みについて」「放課後児童クラブ（学童保育）の夏休み中の学童保育と保護者負担金の引き下げについて」「高齢者の交通手段対策について」の質問がございました。





向井 健雅 議員

・近畿自動車道紀勢線（新宮紀宝道路）の現状について

新宮紀宝道路

議員

近畿自動車道紀勢線新宮紀宝道路についての現況について、順調に計画どおりに進んでいるのかどうかお聞きします。

産業基盤整備担当理事

近畿道紀勢線推進プロジェクトチームでは、昨年度、国土交通省が実施しました物件調査等の調査結果に基づき、6月末から順次、地権者の皆様へ調書内容の説明を行って

おります。プロジェクトチームの職員は代替地に関する事や、税金等、地権者の皆様の相談事に丁寧に対応を頂いているところでございます。補償対象となる土地及び家屋等の物件について、調書で確認していただいた地権者の皆様には、補償額を提示のうえ、補償契約締結のお願いを開始しており、早い方とは8月下旬に補償契約を締結したと伺っております

議員

我々も強く早く完成できるように祈る一人でもございませう。この新宮紀宝道路を含む近畿自動車道紀勢線については、当初私は合併後に参画をさせていただいたのですが、その折には、まさしく河口に橋を架けるという要望でございまして、その後、23年度に東日本大震災、そしてまた我が紀宝町においても多大な水害被害が起きたというなかで、その一環として、それも含めて二階衆議員が紀伊半島一周という構想を打ち出し、当時、震災が起きた地域ではこういう高速道路が災害時には、非常にその機能を果たしたというなかで、紀宝町にお

いては、その折の交通アクセス、自衛隊がこちらへ来られるアクセスも非常に困難をきたし、津波の心配もございまして、そういったことからこの紀伊半島をつなげようということに移行していったわけでございます。その折に、橋だけじゃなしに一周という高規格道路をつける際には、紀宝町としての、町長をはじめとする考え方については、つなげるのであれば乗り降りする道路も併せてつくってくださいついて希望を国交省に申したわけでありませう。それが希望通り叶ったわけでございますし。この道路についてはそういった経緯のなかで、これまでやってきたわけでございます。その点を皆さんは間違えのないようにしていただきたいと思っております。

おそろくどの事業も100%成功というか、いいという事業はないだろうというなかで、例えば90%いいと、残りの10%はここが嫌というなかで、その10%を、いかに100%希望に沿えることができないにしても、何かしら手当をしていくということが重要になるかと思ひます。それ

についても当局においてはそういう姿勢の答弁を先ほど聞いておりましたので。今後も完成に向けてより一層の予算獲得に向けて努力をしてまいりたいと思ひますが、最後に町長のほうの所見をお願いしたいと存じます。

町長

14年に地域住民の皆様方の署名等から始まって、平成16年に熊野川河口に橋を架ける会というのが出来ました、それ以来ずっと要望活動を展開してきたわけですが、おっしゃっていただいたように熊野川の河口部に橋を架けようと、新宮市と紀宝町が力を合わせて橋を架けていくといううかたちのなかで、要望活動が始まったわけでございます。この熊野川河口大橋を含む新宮紀宝道路として、皆様方の生活の利便性のための向上にしっかりと、その効果を發揮していただけるように努力をしていきたいというふうに思っております。おっしゃっていただいたように全て事業等、進捗進めるうえにおいて、なかなか全てご理解を賜るといふのも非常に難しいところもございませう。我々とし

ても、そういった皆様方のお声を、少しでも受け取りをさせていたいただいて、少しでも解消できる、向上できるように今後とも努力をしていく必要があると思っておりますので、職員と力を合わせて、町民の皆様方から頂いた意見については真摯に受け止めて、さらに前進をさせていただく、そういう取り組みをしていきたいと思っております。100年に一度の大事業といううかたちになるかと思ひますけれども。こういう事業になればなるほど、地域の皆様方にご理解ご協力いただく、ご負担をいただくことが増えてこようかと思ひますが、一日も早く完成させて皆が立派な道路が出来て便利になり、その当時は大変苦労したけど、子ども達やこれから生活していく人達が、この地域の発展、振興のために大変役立つ道路で良かったと言ってもらえるような橋に早くできるように、これからも頑張っていきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願ひを申し上げます。



的場 孝一 議員

・西田町長4期目(合併後)
を目標しての出馬決意に
ついて
・熊野川掘削事業と嵩上
げ事業等について

西田町長の 出馬決意について

議員

先日、選挙管理委員会より町長選挙の日程が発表されました。来年1月23日、告示。1月28日投票日と決定され、4カ月余りで町のリーダーを決める日も迫ってきています。現町長として再出馬する決意は当然と思いますが、この議会で決意表明をいただければありがたいと思います。私はいくつかの視点から応援したいと思います。1点目は

前回の改選時では平成23年9月の紀伊半島大水害の被害から私達の町がどのような復旧・復興がなされ、どのようなかたちで終えるか懸念していました。激甚災害の指定を受けるなか、町長以下、職員の努力、ボランティア、住民の協力が結集した結果、予定を超える早さで復興を遂げたと思っております。しかし、今回は公約どおり紀宝新宮道路の早期実現に向けて手腕を発揮して頂きたいと思えます。全国を見渡しても道路網がつながっていない地域はごく僅かです。つながれば地域の経済、防災、医療等、社会現象が変化し、活性化が顕著に現れると思います。2点目は社会福祉協議会を中心とした高齢者の安全安心な生活を守る活動が幾つもの団体で形成されています。また子育て支援、医療費助成制度が今年度から高校生までの子ども等まで拡充され、集団検診など継続的な政策が進められる中、住民の生活基盤の安心安全に繋がっています。これらの取り組みは近隣地域の方からも羨ましく思われているのが現状ではないでしょうか。

3点目として、財政基金から考えてみると一般会計基金では平成28年度末、基金残高36億307万円で、財政では非常により状態で安定していると評価しています。4点目が、私は地方創生の進捗に危機意識を持っています。紀宝町まち・ひと・しごと創生総合戦略や第2次紀宝町総合計画のアンケートの中では上位に、紀宝町の将来像として住みよい町づくり、安心安全な町づくりを望んでいる人がランクされていますが、私は若者に生まれ育ったこの地域で働く場所を創出すること、もう1点、全国的に賃金格差が広がる昨今、少しでも所得向上につながる政策が進めば、この地域の生きた地方創生になると願っています。大変な課題だと思えますが、西田町長が4期目の再選を果たし、紀宝町のリーダーとして先頭に立ち指導力を発揮し、スピード感を持って、新宮紀宝道路早期実現や諸問題解消に向かつて頑張っていたきたいと思えます。来年の町長選挙に出馬する決意を示していただければ有りがたいと思います。

町長

合併直後の町政という形になりますが、まず新町の財政基盤の確立が喫緊の課題でして、特に脆弱な財政状況の改善を積極的に取り組み行財政改革という事につきましては、町民皆様方に痛み、ご負担を頂いたところでございます。改めて、いただきましたご協力に対しまして感謝申し上げます。また平成23年9月紀伊半島大水害で未曾有の水害に遭い、それらの教訓から南海トラフを震源とする大地震、あるいは津波という大変懸念をされていることに関し、町づくりの新たな基本方針として、人の命が一番ということを最大限に掲げ、全国に先駆けて、タイムラインの導入、飲料水、避難所等の災害対策の強化に取り組んでまいりました。安全で安心できる町で、そして災害に強い町づくりを進めてまいったところでもございます。又、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の指針を踏まえながら安心して生み育てられる、誰もが働きやすい、誰もが暮らしやすい、そして交流によって賑わい溢れる町の建設に向け

これからの課題に果敢に挑戦し、愛する故郷、紀宝町の振興発展、福祉の増進のために、4期目の町政を紀宝町の振興発展、そして増進のため、しっかりと町政を担当させて頂くべく努力をして参りたいと思っております。

熊野川掘削事業と 嵩上げ事業

議員

河川激特事業は平成28年度で終了しましたが、今回新たに平成29年度から概ね5年間で50億を投じて河道掘削などの洪水対策が取り組まれることになり、地域住民の安全安心が高められると思います。今年6月21日のゲリラ豪雨時、また、8月の台風5号時では熊野川河道掘削の効果で、どの程度水位が抑えられましたか。

産業基盤整備担当理事

激特事業による河道掘削によって、台風5号では成川水位観測所において今回の最高水位は3・15mとなっていました。

す。これを掘削しなかった場合の想定水位の計算では4.26mとなり国土交通省では約1・5メートルの水位低減効果があったというふうに発表されています。相野谷川も殆ど同様でございます。

議員

龍光寺水門付近25m程の未完成嵩上げ工事が未着手で、大変残念に思います。道幅も狭く、通学路、交通にも危険です。今後の対応をお聞きます。

産業基盤整備担当理事

この未着手区間について、国に確認しましたところ、JRの橋脚が近接していることから道路拡幅および堤防嵩上げ工事について、国とJRで協議を行った結果、平成30年度完成を目標に進めていくと伺っております。

※この他に「旧紀宝町役場庁舎解体について」の質問がございました。



原 章三 議員

・大里自然プール、親水公園における水事故防止について
・土木建築業種の不況対策について

他

水事故防止

議員

大里自然プール親水公園において、8日、増水時にも関わらず遊泳していた女子児童が流される事件が発生しました。たまたま通りかかった地元住民に救助されましたが、事件発生当時は遊泳禁止の看板とロープだけで監視員は不在でした。今後、増水時や台風時には監視員を配置すべき

ではないですか。

教育課長

台風5号の接近に伴う対応ということで堰を撤去し、8月8日に遊泳禁止という対応で入り口にロープを設置して、また遊泳禁止の看板等を設置した対応を実施しましたが、利用される方がいましたので、8月9日からは監視員を配置し、注意を呼びかける対応を行ってきたところでございます。

議員

監視員さんの業務は大変です。特にウィークデーは一人の利用人員や車両台数のカウント、そして看視業務をこなさなければなりません。今後、増員をおこない本来の監視業務に専念できる対策を講じるべきではないか。

教育課長

今後課題を洗い出し改善に向けた検討を進めてまいります。

議員

タイムライン発令時や急な気象状況の変化、またゲリラ豪雨時には自然プールや親水公園での遊泳禁止の呼びかけを行政無線放送で流すべきではないか。

住民サービス担当理事

今後、教育委員会、地元の方と協議検討してまいります。

土木建築業種の不況対策

議員

今日、土木業者さんは今年度の県の予算が大幅に削減されたことにより大変な状況にあります。どのような対策を講じているのか。

産業基盤整備担当理事

県土整備の予算では12・6%減の858億円と厳しい状況になっており、平成3年度をピークに減少し26年度では半減しております。町としては昨年度とほぼ同額の予算を確保しており今後、国、県に對して、必要な公共事業を確保するよう要望してまいります。

議員

地元の中小的業者さんの存在はいざ災害時には一番頼り

になるわけです。今後、県の予算を前倒ししてでも救済すべきではないか。

産業基盤整備担当理事

今後、国の補助金交付がネツクになってまいりますので、各機関と連携し、予算確保に向けて努力してまいります。

保育士等嘱託職員の処遇改善

議員

同一労働、同一賃金については、国も昨年12月、地方公務員の臨時非常勤、任期付き職員の底上げを図っていく報告書をだしています。今日看護師さんや保育士さんが不足し深刻な問題が発生しています。その背景には労働条件や低賃金の問題があります。特に嘱託職員の保育士さんは正職員と同じ仕事をしながら賃金、手当等で大きな差があります。今後どう進めるおつもりですか。

総務担当理事

嘱託職員の手当等について

は保育士さんを中心に現在置かれていた状況を確認している状況でございます。38名の嘱託職員がおり、公平に処遇を考えていかなければならないと考えております。

議員

御浜町の嘱託職員取り扱い要綱で、紀宝町には無い住居手当、期末勤勉手当、さらには勤続20年を経過したときは特別昇給として1号給昇給ができるとなっております。同じ地方公務員としてこのような差があつていいのか。働く女性を守る、働く人たちを守るのであれば近隣とは当然横並びにすべきではないか。

町長

ご指摘については財政状況、給与体系状況を踏まえ適切に取り組んでまいりたいと思います。

国保の都道府県一本化

議員

来年3月実施の一本化については11月に概算確定し2月

に確定ということですが100%値上げされることになりませんが、今日国保滞納者が増加しております。これは高すぎる保険料が払えない等、加入者の所得が伸びずにむしろ低下しているわけです。国保本来の原点に返り、上がる前に先ず下げることが要望します。

町長

国保については毎年1%のご負担をお願いしていますが非常に厳しい財政状況にあります。今後議会等も含めて議論いただきたい。

介護保険料普通徴収

議員

65歳以上の介護保険料の普通徴収についてはほとんどの方が低年金、あるいは無年金の方となっております。滞納状況はどうなっていますか。

健康福祉担当理事

紀宝町では65歳以上の第1号被保険者数は4262人で

天引きされるかたは3682人、普通徴収は584人で、徴収率は普通徴収では84・97%となっております。

議員

保険料を滞納すればペナルティーが課せられますがどのような内容なのか。

健康福祉担当理事

保険料を2年間滞納すれば負担割合が3割に引き上げられることとなります。また高額介護サービスも受けられなくなります。

議員

現行法ではこのペナルティーを避ける方法がないのが現状です。国保並みに自治体に一定の裁量を認めて、低所得者に保険料を賦課しないなどの対策を求めるべきではないか。

健康福祉担当理事

低所得者の保険料は平成12年発足時は1500円、29年度は2900円となっております。一方で給付も2倍になっていく状況でございます。30年度からは、所得の低い方には負担を少なくし、高い方には相応の負担をお願いするかたちで検討中でございます。



浅田 和江 議員

・紀南病院の示すコンセプトについて

紀南病院の示すコンセプト

議員

紀南病院が示すコンセプトについて伺います。救急について、目指す状態、目標はどのようなものなのか。また現状はどのようになっていますか。

健康づくり推進課長

紀南病院は、244床で運営されています。救急搬送が平成28年度の実績で1638件、365日24時間体制で受け入れております。常勤医師

はもちろん、三重大学病院などからの非常勤医師にお願いして、現在当直医1名、待機医1名で休日夜間対応をしているとのこと。循環器や脳神経外科系などの救急搬送の場合、近隣の医療機関や三重大学病院、伊勢日赤へ搬送せざるを得ない状況にあることが課題で、専門医師の不在が最も大きな問題点ですが、専門医師の確保は非常に厳しい状況です。現在は新本館屋上のドクターヘリポートが活用でき、日中は搬送が短時間で対応できます。今後高速道路の全通により、陸路搬送も短時間になると考えています。

議員

近隣病院と連携をとって、いかに早く治療が始められるかが課題になると思います。が、転送に関してどのような取り組みをしていますか。

健康づくり推進課長

ドクターヘリが利用できる状態であれば、短時間での搬送が可能ですので、新宮市立医療センター、尾鷲総合病院など近隣医療機関と連携を結んでいると聞いています。

議員

救急隊の方が現場で、緊急の検査や手術が必要だろうと判断できる場合でも、紀南病院に搬送となっていますか。

健康づくり推進課長

救急隊員は医療センターとも連絡がとれると聞いており、必ず紀南病院が一番ではないと伺っています。

議員

回復リハビリについて伺います。リハビリがフル稼働していない理由は人員不足であると聞きました。回復リハビリについて、現状はどのような状態を指しますか。

健康づくり推進課長

回復リハビリは、40床を回復期病棟として運営し、急性期治療を終えた患者をリハビリ治療することで在宅復帰につなげるものです。リハビリスタッフの確保が課題で、介護事業所の増加に伴い、理学療法士、作業療法士とも計画通りに採用できていないところもあります。スタッフ確保に取り組むとともに、リハビリの質の向上に努めていくことが必要と考えています。

議員

リハビリの専門職の方が少

ないということですか。

健康づくり推進課長

特に理学療法士、作業療法士がいらないと伺っています。

議員

どのような人員獲得の方策をとっていますか。

健康づくり推進課長

ホームページでの掲載、地方新聞、あるいは大学、学校への紹介等です。

議員

中高校生を対象に職業体験をされたことが載っていました。このような機会を増やすとか、見学・体験の受け入れ。またリハビリ担当の人達による出張講演会などをして関心を持ってもらうことも出来るのではないのでしょうか。就学資金の貸付制度のような制度も、長い目で見たら投資になると思うので、検討していただきたい。また遠方から就職する人に対して引越しの一部助成など、就職しやすい環境を整えていただきたいと思っています。

健康づくり推進課長

紀南病院への意見としてお伝えしたいと思います。

議員

紀南病院は災害拠点病院の

指定を受け、災害に強い病院としてスタートラインに立つたと感じますが、災害に強いこととはどのような状態か、また現状はどうですか。

健康づくり推進課長

紀南病院は、海拔27メートルの高台に位置し、周囲に河川や崖崩れの恐れのある傾斜地もなく津波や風水害には影響が少なく、また、新本館は免震構造で、新本館以外も耐震補強がされています。旧館については建物が崩壊する恐れは少ないですが、設備や建具などが被害を受ける心配があり、今後改修を進める必要があります。現在D M A T災害時医療派遣チームの設置がされていないことから、早急に配備する必要がある、10月に、医師1名、看護師2名、業務調整員2名の計5名が神戸市で研修受講の計画があると聞いています。また、近隣の災害拠点病院とも連携を図り、発災時の応援体制を確立することにより、さらに災害時の救命力のアップにつながると考えています。

議員

指定を受けても磨いていかなければ強くはなっていないか

と感じます。南海トラフの巨大地震が発生すれば被災地は広範囲に及び、この地域は発災直後は外部からの救援が望めないと思います。救急の日の講演会でもD M A Tがこの地域に入ってくるには3日から5日後になるのではないかと言っていました。ボランティアが入ってくるのはもつと後になってくると思われるます。それまではこの地域力で乗り越えなくてはならないということになります。関係機関等の連携はもちろんのこと、地域住民との連携も必要ではないかと考えますが、どのようにお考えですか。

健康づくり推進課長

紀南病院、紀南医師会、消防、警察、薬剤師会、歯科医師会等で行く協議会などで訓練を重ねていますし、地域住民の理解が非常に大切になると思います。紀南病院の救急の現状や受け入れは住民の理解が必要で、引き続き協議会などを通じて対応を継続してまいりたいと考えています。

議員

紀南病院は、医療、介護、福祉の中心となる重要な存在

です。地域の安心のため、さらに拡充していただきたいと思っています。





莊司 健 議員

- ・マダニ感染症について
- ・地籍調査について
- ・医療体制整備について

マダニ感染症

議員

2011年に特定されたSFTSマダニ感染症について、三重県、紀宝町ではどのような取り組みがなされていますか。

健康づくり推進課長

病原体を保有するダニの感染症対策ですが、ダニに刺されないための注意が必要です。三重県では平成29年度伊勢管内において研修会があり、ほかにも医療従事者や保

育士、学校関係者、社会福祉

関係者、警察関係者などに研修

修を行っており、チラシを作

成し各市町に配布しています。

当町においては保健セン

ター、教育委員会、産業建設

課に配備しています。

議員

マダニを運ぶ野生動物のウイルス感染について調査が行われていますか。

健康づくり推進課長

県、紀宝町においても調査ができていないのが現状です。国県の動向を見ながら指導を受けてまいります。

地籍調査

議員

岡山県真庭市は木材産業が盛んな山間の町で、地籍調査についても実施率が97%。市役所において森林の状況が把握できます。紀宝町の地籍調査率は極めて低い状況です。明治、大正の地図も不正確で、その地図を基準にする森林データも不正確です。森林台帳整備はどのように進んでいま

すか。

産業建設課参事

林地台帳は、平成28年5月

法制度化され、昨年度県より

情報収集を行いました。本年

10月に林地台帳整備委託業務

を発注の予定です。

議員

林地台帳が少しでも正確性の高いものになるよう取り組みをお願いいたします。日本有数の木材集散地であったこの地方の地方創生には、木材産業の振興が欠かせません。町長のご意見はいかがですか。

町長

地籍調査については、公共事業、民間活動を進めるうえで非常に大事な課題であると考えております。また、新宮紀宝道路においても効果を發揮してくると思います。紀宝町は、井田地区を中心に地籍調査を進めてきましたが、結果が伴わない面もあり、境界確定、所有者の明確化が大事だと思います。森林の振興発展に向け一番の基礎となる部分であり、これからも努力してまいりたいと思います。

医療体制の整備

議員

紀南病院の災害拠点病院指定の知事発表がありました。大型台風、巨大地震の発生が危惧される中でこの指定は、不安解消につながると思います。DMATの編成、受け入れ態勢の整備に資金も必要で、他市町と協力して内容充実に取り組む必要があります。今後、災害拠点病院の内容充実を進めていくことでよろしいでしょうか。

健康づくり推進課長

8月22日県より災害拠点病院の指定を受けました。DMATは災害拠点病院には設置が必須となっています。備品等は、院内の事業継続計画の中で順次整備の予定です。専門医については、外科、内科、整形外科、総合診療科に指導医が在院し、対応可能です。医師の研修にかかる交通の利便性については、高速道路体系の整備の進捗により大都市や白浜空港へのアクセス時間短縮が期待されます。

議員

紀宝町では「子供は町の宝」と子育て環境の整備を進めてきましたが、最近の新たな取り組みがございいますか。

健康づくり推進課長

平成29年4月1日より安心して妊娠、出産、子育てができる環境実現のため「子育て世代包括支援センター」を設置しました。妊婦さんと時間をかけて面談し、一人ひとりの課題やニーズを把握してケアプランを立て、妊娠や育児に対する不安が解消できるよう支援しています。二人目以降の妊娠については育児の悩みが具体的であり、お子さんの預かり場所など保育所、ファミリーサポなどと横断的に支援を行っております。育児についても子育てワークショップなどの事業で子育ての不安や孤独感の解消などについて支援しています。

議員

出生数の減少など過疎高齢化に直面するこの地域で、生を受ける子供たち全員が祝福され、愛され力強く育つよう十分な支援をお願いします。町内で人気のある住宅地は、坪単価が高くなりがちです。地価の安い地区にリーズナブ

ルな宅地を整備し若者の移住定着を目指してはどうですか。

町長

人口減少、少子高齢化には危機感を持ち、「子どもは町の宝」を基本に、取り組みを進めております。紀宝町に住んでいただくためにも、子育て支援の拡充、リーズナブルな宅地の提供などニーズに合った方向性を見つけてまいります。

議員

新宮紀宝道路の災害時における整備効果について伺います。

産業基盤整備担当理事

新宮紀宝道路の新規事業採択時評価において、国道42号の課題が3点あげられました。一点目は、防災・災害時の救助活動です。新宮市から紀宝町間の国道42号は唯一の幹線道路であり、有効な迂回路が存在せず、東海・東南海・南海地震の発生時は、国道42号の約四割の区間が津波により浸水し通行不能になると予測されています。二点目は住民生活です。紀南病院と新宮市立医療センターは、地域の高次医療施設の中心的役割を担っており、搬送時間の速達性確保の課題です。3点目は、地域経済・地域社会等です。平成23年9月の台風12号による熊野川の氾濫により、国道42号が通行止めとなりました。また平常時も慢性的な渋滞が発生し、東紀州地域間の連携に支障をきたしております。これらの課題は道路整備により、一点目は、災害時の広域交通ネットワークの安全、信頼性が増し、二点

目は医療施設への搬送時間の短縮、三点目についても、災害時の道路の寸断が回避され、地域間連携が強化されると期待されています。

議員

鵜殿小学校前踏切拡幅工事が来年より着工されます。新宮紀宝道路への交通の流れを良くするこの工事を私は大変評価しています。踏切の拡幅許可は全国でも少なく、この交渉も30年を要しましたが、この諦めない姿勢が命の道につながるのではないかと思います。忘れてならないのは新宮紀宝道路は、余儀なく立ち退きをされる協力者の方々あつてのことです。推進議員として心から感謝いたします。

町長選挙について

議員

平成18年1月の合併時の基金は2億円という危機的状況でしたが24年度決算は30億円、28年度決算では40億9千4百万円となり、財政状況はさらに良くなっています。町長の選挙公約には、福祉増進と安全安心な生活の確保をするため、行財政基盤を強化し、自主独立を継続できる足腰の強い町づくりを推進すると明記され、現に国、県の補助金による事業も多く行い、基金を積み立て、住民サービス、災害時のスピード対応が図られています。他の公約に紀宝バイパスの早期完成と河口大橋の建設推進、特別養護老人ホームの建設、飯盛保育所、井田保育所、成川小学校建て替え、北檜杖、浅里地区上水道の整備、若者定住対策、高校生の医療費助成、また、学童保育の充実、保育料の軽減、0歳児保育の実施、遊び場開放、通園めだか、子育て支援センターなど、子育て支援の充実も図っています。

町長

す。定例会において、町長は来期も引き続き頑張ると約束されましたが、町長の思いをお聞かせください。

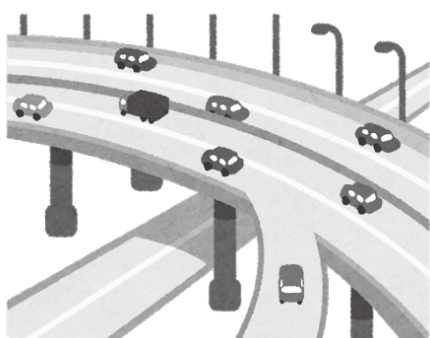
合併当初は、厳しい財政状況下、しっかりと体制を整えるため、行財政改革を断行し、170名近かった職員も、今では120名程度となり、支所の廃止はつきまじりましたが、移動支所や郵便局の活用による住民サービスの進めました。移動図書館の利用も増えており町民の皆様感謝申し上げます。23年の災害発生時は16億円程度の基金により、災害対応が行えたと思っております。2期目は地震対策に取り組んでまいりました、3期目は悲願でありました、熊野川河口大橋が事業化されました。地域が自立する上で、大きな社会資本整備であり、早期完成に向け取り組み組んでおります。また少子高齢化、人口減少の時代を迎え、今後の町づくり、しっかりと方向性を持って取り組み、人の命が一番、子どもは町の宝、高齢者は町の誇りであり、町の振興、誇りと愛着



山本 精一 議員

- ・災害時における近畿自動車道紀勢線（新宮紀宝道路）の役割について
- ・来年1月に執行される町長選挙について

災害時における新宮紀宝道路の役割



の持てる町、魅力と活力に溢れた町、紀宝町に住んで良かった、住みたいと思われる町づくりを進めております。4期目は、これらの部分が実現できるよう皆様方のご指導ご支援を賜れば、大変幸甚でございます。

議員

人件費は支出の30%が平均ですが、紀宝町は16%です。町長の指導のもと、町の対応は早いとよく聞きます。行政改革による少ない職員で対応が多くなり忙しいと思いますが、住民と心がつながっている結果だと私は思います。町長は子育て支援に力を注いでいますが、子育て支援に対する思いをお聞かせ下さい。

町長

安心して子どもを産み育てられる町をつくるのが、一番大事だと思います。定住化を図るためには住宅地も必要で、様々なことを総合的に考え、紀宝町に住んで良かったと実感していただける体制を作り、子育て支援の充実に向け努力いたします。

議員

再選した暁には、新宮紀宝道路の早期完成はもちろんの

ことですが、成し遂げたいことをお聞かせ下さい。

町長

紀宝バイパスの早期完成と熊野川河口大橋の8年後の実現という公約は、7年で事業化となりました。これは皆様方のお力添えの賜物でございます。新宮紀宝道路熊野川河口大橋の実現が私にとって最大の課題であり、早期完成に向けて一層の努力、そして地権者の皆様方のご理解をいただく努力をしていくことが大事だと思っております。また、公共施設の老朽化対策につきましても南海トラフ地震に備え、安全安心の確保に努めてまいりたいと思っております。

議員

私も高速の推進派ですから、ぜひ町長に高速を頑張っていたいただき、また、町の顔となる商店街活性化にも基金も使っていただき、町づくりを強力に進めていただきたいと思います。



次回定例会の予定

12月12日（火）開会予定です。
傍聴は議会事務局で受付ています。

議会生中継について

公共施設5ヶ所のロビー等において、町議会本会議の模様を生中継していますので、議会日程をご確認のうえ、ぜひご覧ください。

- ① 役場本庁舎
 - ② 生涯学習センターまなびの郷
 - ③ 福祉センター（鶴殿）
 - ④ 保健センター（神内）
 - ⑤ 相野谷診療所
- ※放映時間については、当該施設開館時間内となりますので、ご了承ください。

インターネット録画中継について

町議会では開かれた議会を目指して、平成23年6月定例会分からインターネットによる録画中継を実施しております。映像をご覧頂くには、
◎紀宝町ホームページ↓「町議会情報」↓
「インターネット議会中継」をクリック

可決された議案（9月）

- 平成29年度一般会計補正予算
- 平成29年度紀宝町国民健康保険特別会計補正予算
- 平成29年度紀宝町診療所事業特別会計補正予算
- 平成29年度紀宝町町営浄化槽整備推進事業特別会計補正予算
- 工事請負契約の締結（紀宝町新防災情報システム整備工事）
- 平成28年度決算の認定
- 一般会計歳入歳出決算
- 国民健康保険特別会計歳入歳出決算
- 後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算
- 診療所事業特別会計歳入歳出決算
- 井内地域開発事業特別会計歳入歳出決算
- 町営浄化槽整備推進事業特別会計歳入歳出決算
- 水道事業特別会計決算
- 人権擁護委員の推薦につき意見を求めること
- 人権擁護委員に保田啓一さんを推薦することに同意しました。

意見書（9月）

- 道路整備に係る補助率等の高上げ措置の継続を求める意見書について
- 全国森林環境税の創設を求める意見書について

編集後記

去る十月二十一日、二十二日、台風二十一号の豪雨により、被災された皆様、そのご家族の方々に、心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復旧、復興をお祈り申し上げます。なぜこの時期に大型台風なのか、その原因は海中の水温にある、と言われています。台風は、水温二十六度以下で発達にブレーキがかかる、とされています。しかし、二十一号が北上した海域の水温は、水深五十メートルまで二十八度以上あり、十月とはいえ、台風が発達しやすい条件が揃っていたとされています。この原因を知ったところで、私たちにはどうすることもできません。私たちがするべきことは、直ちに命を守る行動を執ることです。一番大切なのは命、いかなる時もそれが変わることはありません。その命を守るために必要な準備、対策、行動を今一度、点検しておかなければ、と感じました。（文責 塩野）

「議会だより」（43号）

編集委員

塩野 真
浅田 和江
市川 潔